

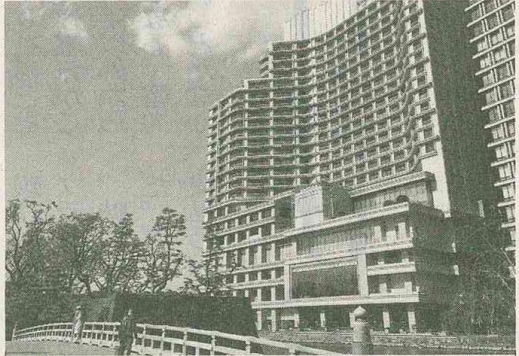
都内ホテルほぼ満室

日本経済新聞社がまとめた、2015年の東京都内の主要18ホテルの客室稼働率は平均84.5%と14年比0.6ポイント上がった。ビジネスマンや訪日客需要でほぼ満室状態が続いており、客室単価も過半のホテルで10%以上上昇した。訪日外国人客の「2000万人時代」を控え、旺盛な宿泊需要がホテルの採算改善を後押ししている。

18ホテルのうち、過半の10ホテルで稼働率が上がった。上昇幅が大きかったのは、ホテルオークラ東京(東京・港)で5.2ポイント上昇して82.6%だった。日本館の閉館をしのいだ客の需要で昨年8月の閉館間際の稼働率が上昇。閉館後も客室数が減る中、好調な需要に支えられた。

2位はパレスホテル東京(同・千代田)。稼働率は83.9%と5ポイント上昇した。「外資系のホテルが軒並み

昨年、客室単価10%超上昇



海外からの富裕層も取り込むパレスホテル東京(東京都千代田区)

満室で、海外の富裕層の顧客を獲得する好機だった」旺盛な需要を追い風に主(西原吉則副総支配人)と要ホテルは客室単価の引き

稼働率、訪日客需要で84.5% 大阪市内は9割超す

上げなど採算改善に動いている。品川プリンスホテルは家族向けや女子会向けのプランを強化し、客室単価が15%上昇した。

供給不足が深刻な大阪の主要12ホテルでは15年の客室稼働率が90.4%と比較できる09年以降で初めて9割を超えた。

16年も引き続き海外客の需要は好調で「予約状況が弱含む兆しは見えない」(プリンスホテルの赤坂茂好社長)との声はある。ただ中国経済の減速感が強まれば、15年ほどの高稼働率は保てないとの懸念も出てい